

# 人生ハンド仏句

第155号

H. 27. 2. 1  
(毎月1日発行)

## イスラム教徒は？

住職 谷川寛俊

イスラム国という、あまり聞き慣れない名称が日本を中心に世界に発信された事件が勃発した。日本人ジャーナリスト二人が拘束され、二百億円を超える身代金を要求するという悪質極まりない事件。そもそもイスラム国とは、自分達で独自にイスラム国という名称を名乗る過激派で、その数約三万人。そのうち外国人が半数にあたる一万五千人とも言われている。もともと国際テロ組織アルカイダ系の一組織だったのが、徐々に暴走を始め、イスラム教少数派のシーア派や、異教徒を敵視し、欧米の植民地支配で成立した国境線の破壊を主張する一つの過激派グループとして誕生したといわれている。

争いや不正をやめて、貧者や弱者を助けるべきことなどを説いた大変崇高な教えが説かれた宗教なのです。今回の事件で二人の日本人が拘束された時から、富山県内に住むイスラム教徒の人達も心を痛め、「イスラムの教えに反した許されない行為であり、二人の無事を願う気持ちは日本人のそれと同じです」と事態の好転を信じて、射水市にある礼拝所で「富山モスク」にパキスタン人や、インド人出身のイスラム教徒が集まって、祈りを捧げ続けている。写真が、地元新聞紙上に掲載されていた。

改めてイスラム教の教えを紐解いてみることにします。アラビア半島の年メッカで、預言者ムハンマド(マホメット)により創唱される。イスラムとは「唯一の神アッラー(アラー)に絶対的に帰依することを意味している。ムハンマドはこの地の名門の家に生まれたが、幼くして孤児になり、叔父のもとで養育され、やがてメッカ郊外のヒラー山の洞窟で、たびたび瞑想にふけるようになり、四十歳の頃に突然アッラーの啓示(神が人間に超能力を現

示すこと)を受け、以来預言者としての自覚を持ち、多数の偶像崇拜をやめて、唯一の神であるアッラーを信じることで、そして争いや不正をやめて貧者や弱者を助けるべきなどを説き、多くの信者を獲得するようになった。イスラムではムハンマドは「神の使徒」、「預言者」、「警告者」などと呼ばれ、神の教え以外のものに従うことを厳しく禁じている。そしてイスラムの教えの根本は、唯一の神を信じ、ムハンマドをその使徒と認め、神に奉仕し、正しい人間関係を結び、天国に迎え入れられることを目的としている。

またコーラン(イスラム教の経典)に記されている教義は、「六信五行」といって、①神(アッラー)。②天使。③啓典。④預言者。⑤来世。⑥神の予定の六つを信じる。特に唯一神アッラーと、預言者ムハンマドを信じることに特に重要視される。五行とは①信仰告白。②礼拝。③喜捨。④断食。⑤巡行を行うことをいう。信仰告白とは「アッラーの他に神なく、ムハンマドはアッラーの使徒である」と唱えるのみで、礼拝は一日に五回の祈りを義務づけられて

れている。夜明け、正午過ぎ、午後日没後、夜半に行われ、その祈りの対象は、ただただアッラーの神を讃えるのみという。自らの個人的な祈りを捧げたい時は、一日五回以外に祈るとされている。そして最終的にはアッラーへの信仰が具体的な行為によって表されなければならないというのである。以上述べてきたように、敬虔なイスラム教の信仰者達において、自爆テロなどは、言語道断の悪行と認識されているのです。ただ今回テロを起こしたイスラム国を名乗るテロ集団において、自らの命をアッラーに捧げることが、神への絶対的な忠誠を尽くした形になり、自らの命を省みない勇敢な信仰心で悪に立ち向かうテロという行為によって、神の使徒として、はじめて天国へ導かれると心底信じていると言えるのではないのでしょうか？だとすれば、洗脳された一部の愚かな過激派暴徒であるといわざるを得ません。この愚かにも真剣なイスラム国のメンバ―を救い取らなければいけないのは、世界の崇高な宗教の役目でもあると言えるでしょう。世界の平和と、一天四海皆帰妙法を目指し、益々精進せねばならないと自らに誓う日々です。

